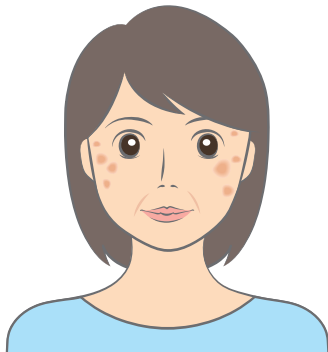


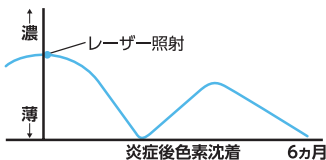
老人性色素斑の症状



マスクを外す場面が増す。20代でも出現し、60代になると気になるのが、この代になると多くの人に見えかみやはお付近のシミです。メイクでも隠しきれないシミについて、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、立川皮膚科クリニックの伊東秀記先生に聞きました。

「顔のシミについて教えてください」

「顔面の、特にこめかみやほおなど日光（紫外線）に多く当たる部分にできる濃い褐色のシミの多くは老人性色素斑です。院では1冊3300円で



レーザー照射後、一時的に色素沈着で皮膚の色が濃くなっても、時間とともに落ち着いていきます

「原因は？」

「皮膚の表皮のメラニン細胞が、長時間日光にさらされることにより活性化して過剰なメラニンを作り出す。長期間日光が当たる部分にできやすく、手の甲、腕の前面などにもできます」

「治療方法は？」

「レーザー照射で治療が当たる部分にできやすく、手の甲、腕の前面などにもできます」

「レーザー照射で治療すると、皮膚組織の組織検査を行います。まずは皮膚科で鑑別を受けてから治療しましょう」

院長：伊東秀記
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、東京慈恵会医科大学医学部卒業

問い合わせ
☎042-843-1377
JR「立川」駅南口徒歩2分



休診日：日曜、祝日

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30~13:30	○	○	○	○	12:30まで受け付け	○
15:00~19:30	○	○	○	○	18:30まで受け付け	17:30まで受け付け

2022年6月24日付 「リビング多摩」に掲載されました